

「愛知県 保育士研修ガイドライン」作成における調査報告書

平成 26 年 9 月

保育コンソーシアムあいち 保育士研修検討委員会

「愛知県 保育士研修ガイドライン」作成における調査報告書 目次

はじめに	... 1
1. 保育士研修の実施状況ー市町村調査から	... 2
1 市町村実施の研修	... 2
2 公立保育所実施の研修（園内研修）	... 5
2. その他の団体が実施する研修ー他団体調査から	... 7
1 他団体実施の研修	... 7
3. 保育士研修に対する意識調査ー保育士調査から	... 9
調査票 A の集計結果	
1 回答者の属性	... 9
2 平成 24 年度の園外研修参加状況	... 11
3 園外研修に対する保育士の意識	... 13
4 園内研修に対する保育士の意識	... 17
5 育児休業明けの保育士の研修に対する意識	... 20
調査票 B の集計結果	
1 回答者の属性	... 21
2 園外研修に対する意識	... 21
3 園内研修に対する意識	... 26
4 平成 24 年度の園内研修の実施状況	... 27
5 育児休業明けの保育士の研修に対する意識	... 29
4. 資料	... 30
5. 委員会および分析・執筆	... 39

はじめに

この報告書は、「愛知県保育士研修ガイドライン」の作成にあたり、保育士研修の現状を把握するために、愛知県健康福祉部子育て支援課が実施した以下の3つの調査のうち、ヒアリング調査を除く質問紙調査の結果をまとめたものです。「愛知県保育士研修ガイドライン」に記載したデータと共に、より詳細な回答の結果を記載しております。

表：「愛知県保育士研修ガイドライン」作成のための調査一覧

	調査	時 期	対 象	回 答 者
	市町村調査	平成 24 年 12 月実施	政令市・中核市を除く県内 50 市町村	各市町村保育士研修担当者
1	市町村調査に基づく ヒアリング調査	平成 24 年 12 月実施	5 市町村	各市町村保育士研修担当者
2	県内関係団体への調査	平成 24 年 12 月実施	3 団体	担当者
3	保育士調査	平成 25 年 3 月実施	50 市町村 公・民 136 箇所	園長 136 名 保育士 1521 名

調査にご協力いただいた、保育士の皆様、各市町村の研修担当者の皆様、県内関係団体の研修担当者の皆様に、心より御礼申し上げるとともに、調査報告書を今後の保育士研修にお役立ていただければ幸いです。

保育コンソーシアムあいち 保育士研修検討委員会

1. 保育士研修の実施状況－市町村調査から

【調査対象】

愛知県内の 50 市町村を対象に、各自治体において保育主管する部署の研修担当者に調査を依頼した。

【方法】

メールによる自記式アンケート（メールにより配布・回収）を行った。本報告書においては、「市町村実施の研修」と、「公立保育所実施の研修(園内研修)」に関わる部分の集計結果を示した。

【調査日時】

2012 年 12 月発送

【回収率】

愛知県内の 50 市町村の全てから報告があった。

1 市町村実施の研修

市町村単独の研修を実施していると回答した市町村は、50 市町村のうち 44 市町村（88.0%）であり、市町村から報告された市町村実施の研修の総数は 356 であった。

1) 市町村実施研修の対象について

市町村が実施する研修の対象について、研修ごとの対象を表 1-1 に示した。報告された 356 の研修のうち、公立保育所の保育者を対象とした研修が半数以上にのぼった。公立保育所と民間保育所の両方を対象とした研修は、4 割程度であった。認可外保育施設を含め、全ての保育者を対象とした研修が少ないことが明らかになった。

また、表 1-2 に示したように、市町村ごとの対象をみると、50 市町村のうち、単独の市町村での研修実施をしていない市町村は 7 市町村であり、約 9 割の市町村が保育士研修を実施していることが明らかになった。内訳は、公立保育所と民間保育所の保育者を対象とした研修を実施している市町村が、4 割程度と多く、次いで、公立保育所の保育者のみを対象として研修を実施している市町村が 3 割程度であった。また、認可外保育施設等を含め全ての保育者を対象とした研修を実施している市町村は、3 市町村にとどまっていることがわかった。

表 1-1：市町村実施研修における
研修ごとの対象者

	公立	公立・民間	全て	計
研修数 (%)	199 (55.9)	154 (43.3)	3 (0.8)	356 (100.0)

表 1-2：市町村実施研修における
市町村ごとの対象者

	公立	公立・民間	全て	実施なし	計
市町村数 (%)	16 (36.0)	22 (44.0)	3 (6.0)	7 (14.0)	50 (100.0)

職種、専門別の研修については、図1-1に示した。市町村が実施した356の研修の中で、職種、専門を問わない全保育士を対象とした研修が4割以上であった。職種、専門別に対象を限定した研修の中では、年齢別担当者を対象とした研修が多く、次いで、新任・初任者を対象とした研修が多かった。

市町村ごとに研修の対象を確認したところ、職種、専門を問わない研修は50市町村のうち、8割程度の市町村で実施されていることが明らかになつた。次いで、初任・新任を対象とした研修、主任対象の研修、園長対象の研修、年齢別対象の研修の順に多く実施されていることがわかつた。

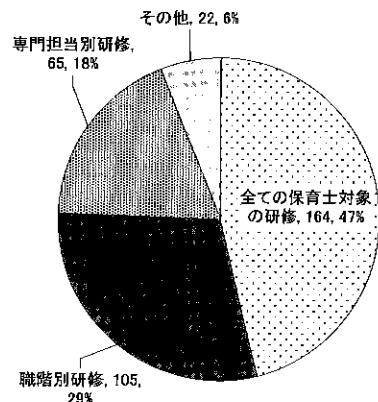


図1-1：研修ごとの対象者の割合

表1-3：市町村実施研修における市町村ごとの研修対象

	新任・初任	中堅	主任	園長	園長・主任	障害児担当	年齢別担当	その他	保育士 (既定なし)
市町村数 (%)	29 (58.0)	13 (26.0)	20 (40.0)	19 (38.0)	2 (4.0)	9 (18.0)	18 (36.0)	20 (40.0)	39 (78.0)

2) 市町村実施研修の実施状況について

(1) 1日あたりの実施時間

市町村実施の356の研修について、1日あたりの実施時間をたずねたところ、「2~3時間」の研修が5割以上と多いことが明らかになつた。次いで、「1~2時間」、「3~4時間」の研修がそれぞれ1割程度であった。

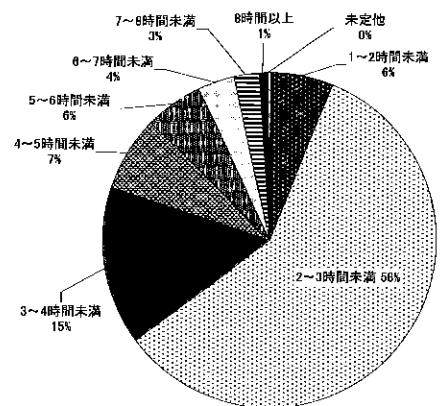


図1-2：1日あたりの研修時間の割合

(2) 研修の実施期間

研修期間は、7割以上の研修が「1日」の実施であった。次いで、「2日」実施の研修が1割程度であった。研修期間が5日以上の研修は少ないものの、「12日以上」の長期の研修も実施されていることが明らかになつた。

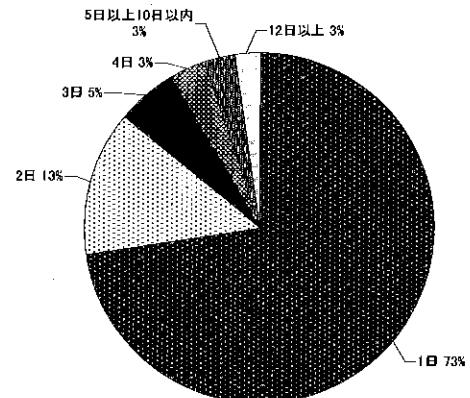


図1-3：研修の実施期間の割合

3) 研修テーマについて

(1) 研修ごとのテーマ分類

市町村実施の356の研修について、18のテーマに分類した。分類できないものは「その他」とした。研修テーマとして多く実施されているものは、「遊び」、「障害児保育」、「保育実践（現場）」の順に実施された研修が多いことがわかった。現場の中ですぐに活かせる遊びの実技や日々の活動で課題となる内容がテーマとして多くあげられているといえる。「遊び」に分類された研修を詳細に見ると、「音楽・リズム」、「運動」がテーマとして多くあがっていた。次いで、「安全・事故予防」、「保育者論」、「援助の視点・方法」、「保護者支援」があがった。これらは、子どもの援助など実践に近いもの、子どもの安全や保護者支援など子どもを取り巻く人的、物的環境に関わるテーマであるといえる。また「保育者論」のように保育の理論的側面を学ぶ研修も実施されていることがわかった。

表1-4：「遊び」に分類された研修の内訳

	音楽・リズム	運動	言葉	图画工作	その他
研修数 (%)	24 (36.4)	17 (25.8)	8 (12.1)	8 (12.1)	9 (13.6)

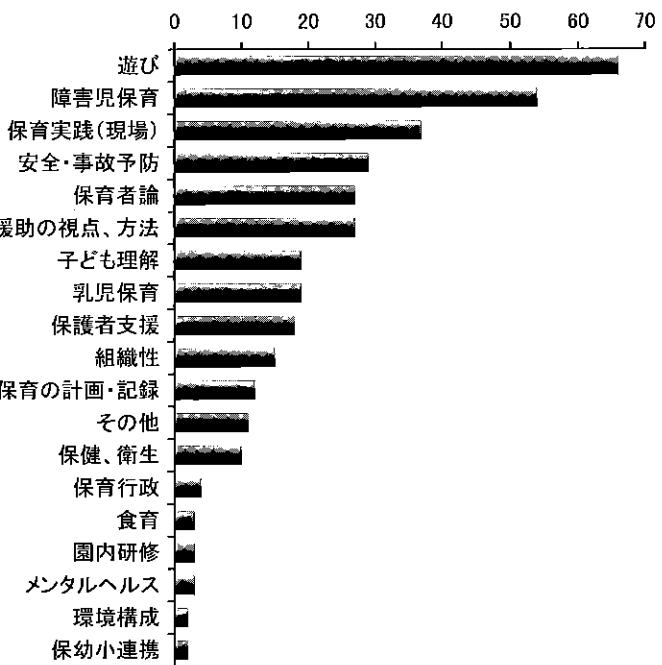


図1-4：研修テーマの分類

表1-5：「障害児保育」に分類された研修の内訳

	気になる子ども	現場(実習・観察)	障害児保育一般
研修数 (%)	13 (24.1)	13 (24.1)	28 (51.9)

(2) 市町村ごとのテーマ分類

研修テーマについて、市町村ごとの実施状況を図1-5に示した。多くの市町村で実施されているのは「遊び」、「障害児保育」、「安全・事故予防」、「援助の視点、方法」であり、いずれも4割以上の市町村で実施されていた。

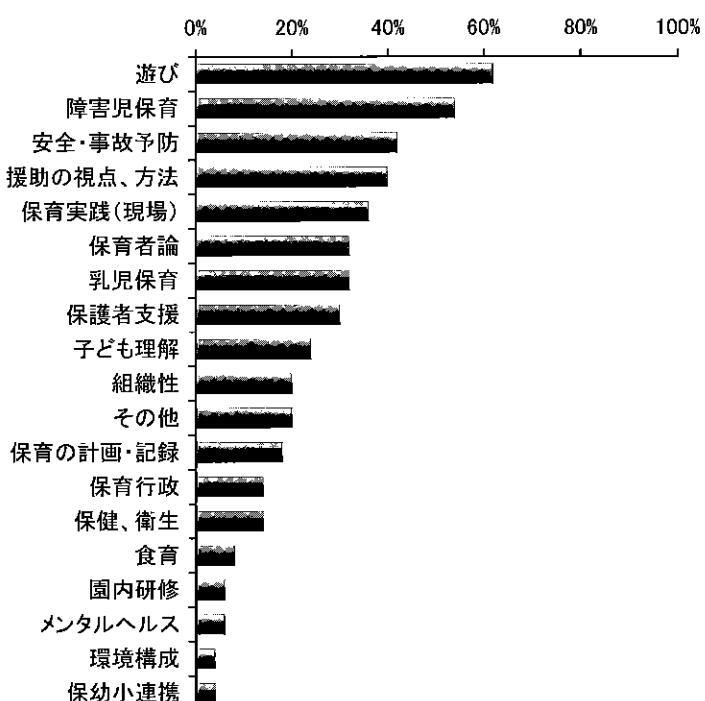


図1-5：市町村ごとの研修テーマの割合

2 公立保育所実施の研修（園内研修）

愛知県内の 50 市町村に対し、公立保育所が各保育所独自で行っている研修（園内研修）について、2012 年度の実施結果をたずねた。園内研修を実施していると報告のあった市町村は 49 市町村（98.0%）であり、大半の保育所が園内研修を実施していた。各市町村で園内研修の実績の多い保育所、少ない保育所、標準的な保育所を 1 園ずつ抽出し、実施状況について回答を求めた。

1) 実施頻度・実施時間について

頻度は月 1 回という回答が 4 割と最も多く、次いで、月 2 回と回答した園が 2 割程度であった。1 回の研修の実施時間は 1 時間から 2 時間程度が全体の 5 割以上を占め、次いで 30 分以上 1 時間以内との回答が 3 割となつた。

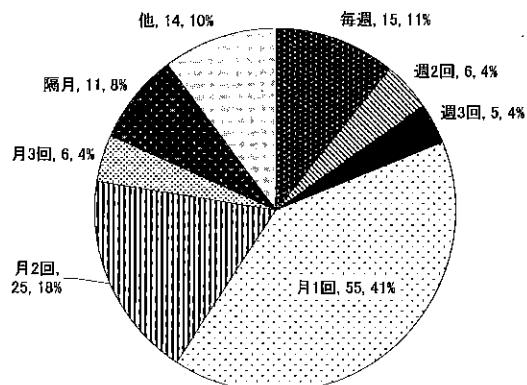


図 1-6：園内研修の実施頻度の割合

表 1-6：園内研修の実施時間

	30分	30分～1時間	1時間～2時間	2時間以上
回答数 (%)	11 (8.2)	42 (31.3)	75 (56.0)	6 (4.5)

2) 園内研修の対象について

研修の対象は、大半の園が職員全員を対象としており（89.9%）、職位や専門を限定した園内研修はほとんど実施されていないことがわかった。

3) 研修テーマについて

(1) 研修ごとのテーマ分類

公立保育所における園内研修の実施状況について、以下の図表にまとめた。公立保育所で実施された 276 の研修について 15 のテーマに分類した。分類できないものはその他とした。研修テーマとして多く実施されているものは、「遊び」、「障害児保育」、「援助の視点、方法」の順に実施された研修が多いことがわかった。この結果は、市町村実施の研修と同様の傾向があり、現場の中ですぐに活かせる遊びの実技や日々の活動で課題となる「気になる子」の事例検討などの内容がテーマとして多くあげられているといえる。

また、「遊び」に分類された研修を詳細に見ると、「音楽・リズム」、「運動」がテーマとして多くあがっていた。

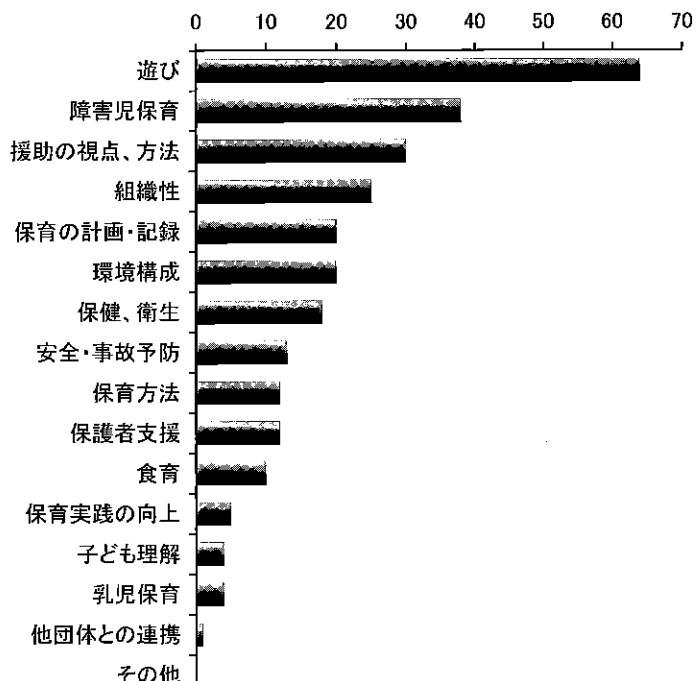


図 1-7：園内研修テーマの分類

表 1-7：「遊び」に分類された研修の内訳

	音楽・リズム	運動	言葉	園面工作	その他
研修数 (%)	27 (42.2)	18 (28.1)	6 (9.4)	7 (10.9)	6 (9.4)

表 1-8：「障害児保育」に分類された研修の内訳

	気になる子ども	他施設との連携	障害児保育一般
研修数 (%)	28 (75.7)	1 (2.7)	9 (24.3)

(2) 市町村ごとのテーマ分類

園内研修のテーマについて市町村ごとの実施状況を見ると、多くの市町村の公立保育所で実施されているテーマは、「遊び」、「障害児保育」、「安全・事故予防」、「援助の視点、方法」であった。

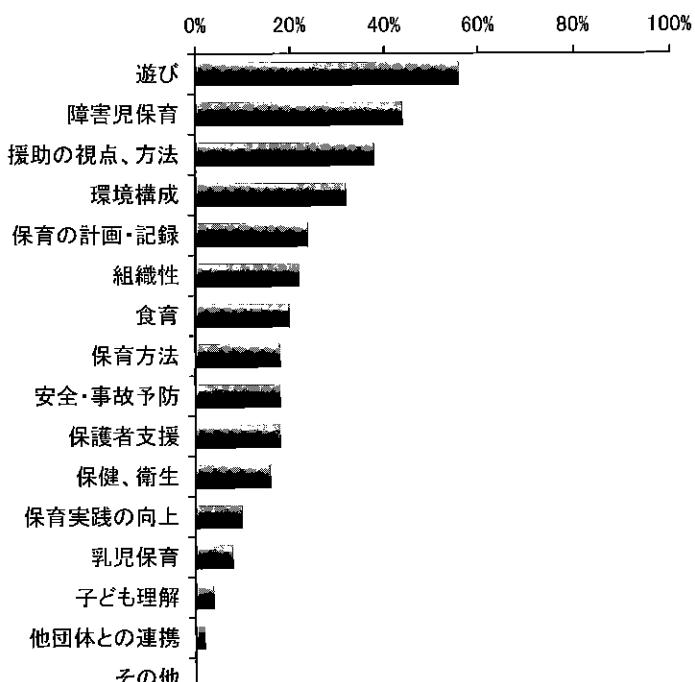


図 1-8：市町村ごとの園内研修テーマの割合

2. その他の団体が実施する研修－他団体調査から

【調査対象】

愛知県保育士会、愛知県私立保育園連盟へ研修の実施状況に関する調査協力を依頼した。アンケートは、資料として最後に掲載した。

平成 23 年度に実施した研修（実施予定を含む）について、愛知県保育士会から 3 件、愛知県私立保育園連盟から 9 件、計 12 件の回答を得た。

【調査日時】

2013 年 1 月発送

1 他団体実施の研修

1) 研修の対象

研修の対象としては、全ての研修において民間保育所の保育士が対象となっていた。12 件のうち、公立保育所を対象に含めていた研修は 3 件、認可外保育施設を対象に含めていた研修は 1 件であった。また、一般の方を対象に含めた研修が 2 件あった。

対象の詳細は、経験別、専門別に対象を限定していない研修が 4 件であった。それ以外の 8 件に関しては、新任・初任対象のものが 2 件、中堅対象のものが 1 件、新任・初任と中堅を対象にしたもののが 1 件、主任対象のものが 2 件、園長対象のものが 1 件、主任と園長対象のものが 1 件と、経験別に対象を限定した研修が実施されていた。専門別の研修は実施されていなかった。

2) 研修期間と参加費用

研修期間は全ての研修が 1 日であり、研修時間は 1 時間半から 4 時間半の範囲で実施されており、平均すると 2 時間半程度の研修時間であった。参加費用に関しては、各団体の会員は無料、一般も対象となる研修 2 件においては、一般参加費用は 1,000 円であった。参加者数は、研修により大きく異なり、保育士会が開催した研修 3 件のうち 2 件は参加者 800 名を超えるものであった。愛知県保育士会開催の 1 件と愛知県私立保育園連盟が開催した 9 件は、参加者 10 名から 60 名程度のものであった。

3) 研修内容

研修内容に関しては、「援助の視点、方法」が 5 件と多く、次いで「保育行政」が 3 件、「保護者支援」が 2 件、「安全、事故予防」と「組織性」が 1 件ずつであった。経験別に研修内容を見ると、「保育行政」をテーマとする研修は、園長や主任に向けたものが多く、「援助の視点、方法」は新任・初任や中堅の保育士に向けたものが多いことが明らかになった。

テーマの枠組みは比較的大きく、保育や子どもについて広く考える機会を提供するような研修が多いことが、研修テーマや PR ポイントからうかがえる。1 つの内容に焦点を絞り、ある特定の技術や専門性の向上を目指す研修というよりも、保育に関わる知識を得て、子どもへの援助の方法を討議したり、保育に対する振り返りを促したりするような場としての研修が多いといえる。

4) 研修方法

研修方法に関しては、講義が 7 件、演習が 4 件、講義と演習の両方を実施した研修が 1 件であった。演習においては、ワークショップとグループ討議がそれぞれ半数ずつみられた。

5) 研修に対する課題

研修に対する課題としては、予算、会場までの交通事情、日程の調整、研修に関わる人員の確保、研修テーマと講師という 5 点が挙げられていた。またこれらの課題に対して、無料の会場を利用するなど予算削減や、夕方からの開催、人員を増やすなどの工夫がなされていることがわかった。

3. 保育士研修に対する意識調査－保育士調査から

【調査対象】

愛知県内の 50 市町村を対象に、各市町村から公立保育所 2 園、民間保育所 2 園を抽出し、最終的に公立保育所 96 園、民間保育所 56 園の計 152 園へ調査を依頼した。公立、民間それぞれ 2 園のうち、1 園は全保育士対象に調査を依頼した。もう 1 園については、園長と主任保育士に調査を依頼した。

【方法】

郵送法による自記式アンケート（郵送により配布・回収）を行った。

調査票は、依頼した園の全保育士を対象とした調査票 A と園長を対象とした調査票 B の 2 種類があった。アンケートは、資料として最後に掲載した。

【調査日時】

2013 年 3 月発送、3 月 25 日締め切り

【回収率】

公立保育所 96 園中、96 園からアンケートの回答を得られた（回収率 100%）。民間保育所 56 園中、44 園からアンケートの回答が得られた（回収率 78.6%）。

調査票 A の集計結果

1 回答者の属性

1) 勤務する保育所

全体では、1662 名からの回答が得られた。その内訳は、公立保育所の保育士 1119 名（67.3%）、民間保育所の保育士 543 名（32.7%）であった。

保育所の実際の職員の分布に合わせた分析を行うため、以降の分析では、全保育士を対象とした園のみの集計結果を示した。全保育士を対象とした園の回答者は、1521 名であり、その内訳は、公立保育所の保育士 1005 名（66.1%）、民間保育所の保育士 516 名（33.9%）であった。

2) 職名

園長、主任保育士、保育士の分布を以下の表に示した。表より、回答者の 85%ほどが、園長・主任以外の保育士であることが示された。

表 3-1：回答者の職名

	園長	主任保育士	保育士	無記入	計
人数 (%)	80 (5.3)	107 (7.0)	1292 (84.9)	42 (2.8)	1521 (100.0)

3) 雇用形態

正規職員、非正規職員の人数および割合を以下の表に示した。全体的には、回答した保育士のうち約半数が非正規職員であることが明らかであり、近年の保育所における非正規職員の数の多さがうかがえる。研修においても、非正規職員を対象に含めた研修を立案する必要のあることがこの結果から示唆された。

表 3-2：回答者の雇用形態

	正規職員	非正規職員	無記入	計
人数 (%)	635 (41.8)	749 (49.2)	137 (9.0)	1521 (100.0)

4) 非正規職員の勤務時間・勤務日数

非正規職員 750 名を対象に、非正規職員の勤務時間、勤務日数についてたずねたところ、以下の表のような結果となった。ほぼ正規職員と同じ程度の時間と日数で勤務している場合と短時間勤務に大きく分かれることがわかった。

表 3-3：非正規職員の勤務時間・日数

	正規職員と ほぼ同じ	およそ1日 6~7時間 ×20日	左記より短い	その他	無記入	計
人数 (%)	241 (32.2)	134 (17.9)	311 (41.5)	26 (3.5)	37 (4.9)	749 (100.0)

5) 保育士としての経験年数

保育所の保育士として勤務した年数を全て合計し、産前・産後、育児休業中の期間を含めない勤務年数をたずねた。小数点以下が記入されていた場合は、切り捨てで、分析を行った。回答者の平均経験年数は 10.8 年（最短 0 年～最長 42 年、SD=9.2）であった。経験年数を 0 年以上 3 年未満（初任）、3 年以上 7 年未満（中堅前期）、7 年以上 15 年未満（中堅後期）、15 年以上（主任・園長またはそれと同程度の経験年数）の 4 つの区切りで分類したところ、以下の表のような分布がみられた。

表 3-4：保育士としての経験年数

	0年以上～ 3年未満	3年以上～ 7年未満	7年以上～ 15年未満	15年以上	無記入	計
人数	226	363	404	391	137	1521
(%)	(14.9)	(23.9)	(26.6)	(25.7)	(9.0)	(100.0)

表からは、0年以上3年未満と3年以上7年未満の保育士をあわせると、全体の38%程度になるのに対し、経験年数では、ほぼ同じ期間である7年以上15年未満の保育士は26%と少ないことから、中堅後期以上の保育士が少なく、初任や中堅前期にいる保育士が多いことが明らかになった。

6) 担当

園長、主任保育士以外の回答者の担当について以下の表に示した。回答では、複数の担当を答える回答者がいたが、乳児クラス、幼児クラス、障害児担当の順に優先順位をつけ、集計を行った。

表 3-5：回答者の担当

	乳児他	幼児他	障害児他	フリー	その他	無記入	計
人数	589	356	80	120	117	259	1521
(%)	(38.7)	(23.4)	(5.3)	(7.9)	(7.7)	(17.0)	(100.0)

2 平成 24 年度の園外研修参加状況

1) 平成 24 年度の園外研修参加の有無

平成 24 年度の園外研修への参加の有無について、以下の表に示した。正規職員 635 名の参加率をみると、92.0%と高いことがわかった。一方、非正規職員 749 名の園外研修の参加率をみると、42.2%と参加率が低くなることが明らかになった。このことから、正規職員であれば、多くは 1 年に 1 回以上園外研修に参加する機会があるのに対し、それと比べて非正規職員は、半数以上の保育士が園外研修に参加していないということが示唆された。

表 3-6：平成 24 年度の園外研修の参加の有無

	参加した	参加していない	無記入	計
正規職員	584 (92.0)	46 (7.2)	5 (0.8)	635 (100.0)
非正規職員	316 (42.2)	413 (55.1)	20 (2.7)	749 (100.0)
計	900 (65.0)	459 (33.2)	25 (1.8)	1384 (100.0)

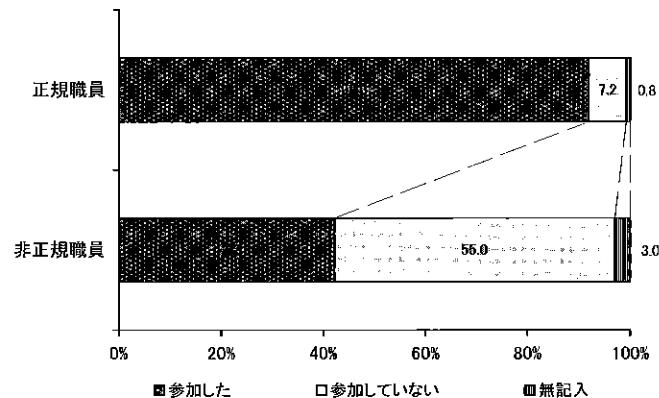


図 3-1：平成 24 年度の園外研修の参加の有無

2) 園外研修の参加状況

園外研修を、「①市町村主催の研修」、「②市町村外への派遣研修」、「③自主的に参加した研修」に分類し、上の（1）で「参加した」と回答した 1022 名を対象に、それぞれの参加回数をたずねた。それぞれの研修に、1 回以上参加した回答者の割合を以下の表に示した。

表 3-7：園外研修の参加状況

	市町村主催	市町村外への派遣	自主的に参加
1回以上	人数 (%)	879 (86.0)	456 (44.6)
0回または無記入	人数 (%)	143 (14.0)	599 (55.4)

この結果から、1回以上参加した研修は、「①市町村主催の研修」が最も多く、「②市町村外への派遣研修」や「③自主的に参加した研修」があると答えた回答者は約半数にとどまった。

「①市町村主催の研修」の平均参加回数は、3.5 回（参加回数範囲：1～30 回）であった。「②市町村外への派遣研修」の平均参加回数は、2.4 回（参加回数範囲：1～20 回）であった。「③自主的に参加した研修」の平均参加回数は、3.0 回（参加回数範囲：1～30 回）であった。

3) 園外研修後の報告状況

今年度、園外研修に「参加した」と回答した 1022 名を対象に、園外研修後の報告状況を以下の図表に示した。表は、「口頭報告」の伝達時間を示したものである。図より、園外研修後の報告方法の中では、「文書報告」の割合が 70% と高いのに対し、「口頭報告」は 25% と低く、口頭報告を行っていても、その伝達時間は 20 分未満が大半を占めていることがわかった。「園内伝達」については、約半数が行っていると回答していた。また、「何もしていない」という回答も 10% 以上あり、研修内容が参加した保育士や一部の保育士のみにとどまり、園内で共有されていない可能性が示唆された。

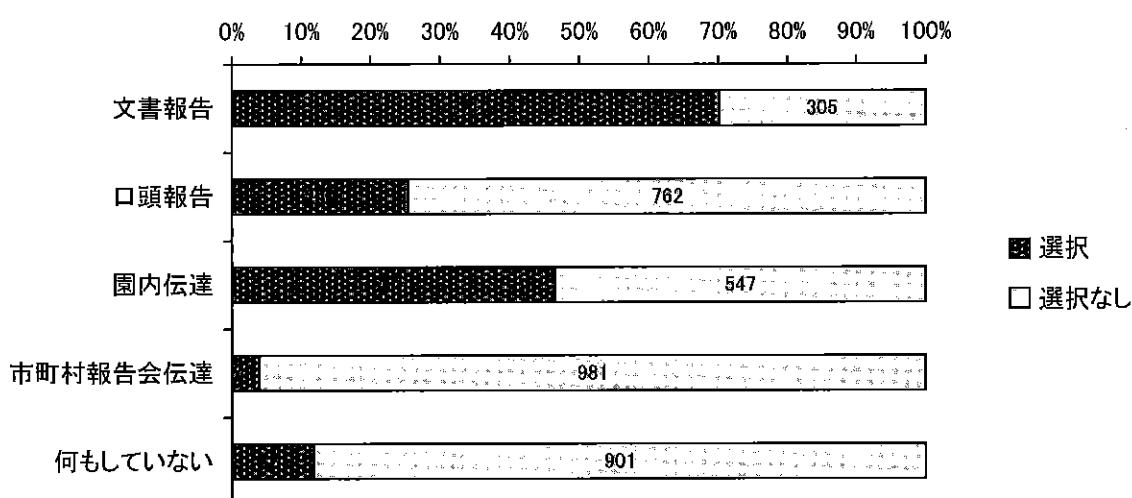


図 3-2：園外研修後の報告状況

表 3-8：園外研修後の報告時間

	0分～ 20分未満	20分～ 60分未満	60分～	その他	無記入	計
園内伝達 人数 (%)	372 (36.4)	78 (7.6)	19 (1.9)	2 (0.2)	551 (53.9)	1022 (100.0)
市町村 研修伝達 人数 (%)	28 (2.7)	16 (1.6)	3 (0.3)	0 (0.0)	975 (95.4)	1022 (100.0)

3 園外研修に対する保育士の意識

1) 園外研修への参加意欲

園外研修への参加意欲について、以下の表に示した。表より「できる限り参加したい」という回答が 16%、「機会があれば参加したい」という回答が 74%であり、あわせるとほぼ 9 割の回答者が園外研修への参加意欲を示した。しかしながら、その内訳として、「できる限り」という積極的な回答より、「機会があれば」という消極的な回答が多いことが明らかになった。

また、非正規職員においては、正規職員と比べ、「できる限り参加したい」と答える回答者の割合が減り、「あまり参加したくない」と答える回答者の割合が増えていることがわかった。

表 3-9：園外研修への参加意欲

	できる限り 参加したい	機会があれば 参加したい	あまり参加 したくない	無記入	計
正規職員 人数 (%)	153 (24.1)	469 (73.9)	4 (0.6)	9 (1.4)	635 (100.0)
非正規職員 人数 (%)	54 (7.2)	576 (76.9)	84 (11.2)	35 (4.7)	749 (100.0)
計 人数 (%)	207 (15.0)	1045 (75.5)	88 (6.4)	44 (3.2)	1384 (100.0)

2) 園外研修に期待する効果

園外研修に期待する効果について、回答の分布を以下の表に示した。選択率をみると、「現場ですぐ役立つ保育技術を身につける」という回答が多く、次いで「理論を新たに学ぶ、再確認する」、「理論と実践を結びつける」という回答があがった。

表 3-10：園外研修に期待する効果

	現場で すぐ役立つ 保育技術	理論を 新たに学ぶ、 再確認する	理論と実践を 結びつける	保育園や 自身の 課題発見	行政や社会の 最新動向	無記入	計
人数 (%)	532 (35.0)	309 (20.3)	359 (23.6)	155 (10.2)	57 (3.8)	109 (7.2)	1521 (100.0)

3) 園外研修希望テーマ

園外研修の希望テーマについて、「あなたが保育士（または園長・主任保育士）として成長するために必要な園外研修のテーマ」として 25 項目を示し、希望する順に 1 位から 5 位までを選択してもらった。25 項目のテーマは以下の表に示した。

表 3-11：園外研修の希望テーマ

1.保育士の役割	14.食育
2.子どもの発達	15.保護者支援・保護者対応
3.子どもへの援助	16.保育士の自己評価
4.保育課程	17.保育園の自己評価
5.指導計画	18.園内研修
6.保育の記録	19.保育園の組織性の向上
7.遊びの実技	20.運営管理
8.保育の環境構成	21.メンタルヘルス
9.保育実践の方法	22.小学校との連携
10.障害児保育	23.地域との連携
11.乳児保育	24.保育の今日的課題
12.子どもの安全	25.保育行政
13.子どもの健康と衛生管理	

まず、選択された回数の多い 10 テーマについて、全保育士の結果を以下の図に示した。

図より、1 位から 3 位までの間で、希望するテーマとして選択された回数が多かったものは、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「遊びの実技」、「保育実践の方法」、「保護者支援・保護者対応」であった。1 位に選択されたテーマのみをみると、先に示したテーマに加え、「保育士の役割」が多く選択されていることがわかった。また、「保護者支援・保護者対応」は、1 位で選択する回答者が少なく、4、5 位で多く選ばれており、潜在的なニーズのあるテーマであるといえることが明らかになった。

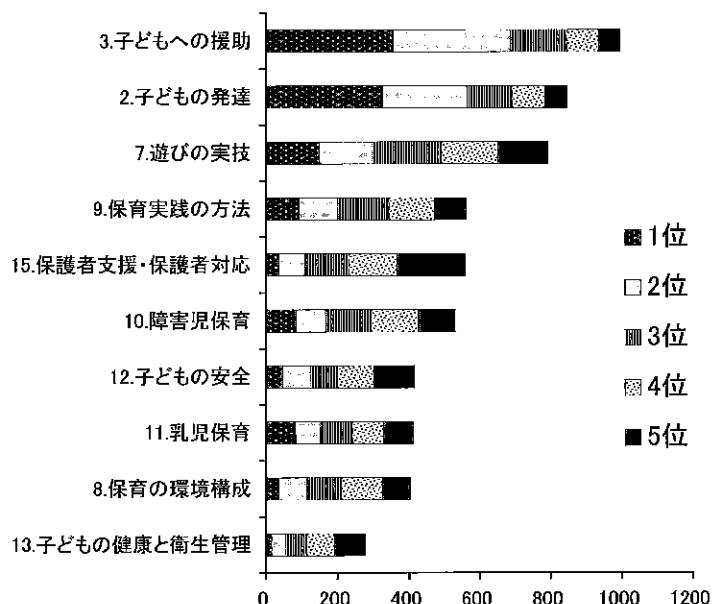


図 3-3：園外研修の希望テーマ

次に、質問 1- (5) で分類した 4 つの経験年数ごとに、希望テーマの選択について集計を行った。園長、主任保育士を除く、保育士の経験年数ごとに、0 年以上 3 年未満、3 年以上 7 年未満、7 年以上 15 年未満、15 年以上の保育士のそれぞれの希望テーマを以下の図に示した。加えて、園長、主任保育士についても同様の集計を行い、図に示した。

i) 0年以上3年未満（初任保育士）

初任の保育士が希望するテーマとして選択数が多かったのは、「子どもへの援助」、「遊びの実技」、「子どもの発達」、「保育実践の方法」、「乳児保育」であった。「乳児保育」の選択が多いのは、初任の保育士が乳児クラスを担当する割合が他の経験年数の保育士と比べて若干高いことや、乳児保育特有の援助や発達理解が求められているためであると考えられる。また、全保育士の集計結果と同様に、1位に選択されたテーマのみをみると、「保育士の役割」が「乳児保育」と同数選ばれていることがわかった。

ii) 3年以上7年未満（中堅前期保育士）

中堅前期の保育士が希望するテーマとして選択数が多かったのは、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「遊びの実技」、「保育実践の方法」、「保護者支援・保護者対応」であった。この結果は、全保育士の集計結果と同様のものであった。1位に選択されたテーマのみをみると、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「遊びの実技」、「保育実践の方法」、「乳児保育」の順に選択が多く、「保護者支援・保護者対応」は、1位で選択する回答者が少ないことが明らかになった。

iii) 7年以上15年未満（中堅後期保育士）

中堅後期の保育士が希望するテーマとして選択数が多かったのは、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「遊びの実技」、「障害児保育」、「保護者支援・保護者対応」であった。「障害児保育」の選択が多いのは、中堅後期以降の保育士が、ベテランとして、障害児を担当する割合が他の経験年数の保育士と比べて若干高いことや、障害児保育にかかる専門的な援助方法、知識を求める保育士が増えるためであると考えられる。1位に選択されたテーマのみをみると、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「遊びの実技」、「保育実践の方法」、「障害児保育」の順に選択が多く、「保護者支援・保護者対応」は、1位で選択する回答者が少ないことが明らかになった。また、「保育士の役割」も5位までみると多くはないが、1位のみでは「障害児保育」に次いで多いことがわかった。

iv) 15年以上の保育士

経験年数が15年以上の保育士が希望するテーマとして選択数が多かったのは、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「障害児保育」、「保護者支援・保護者対応」、「遊びの実技」であった。経験年数が15年以上の保育士は、中堅後期とほぼ同様の傾向を示していた。

v) 主任保育士

主任保育士が希望するテーマとして選択数が多かったのは、「保護者支援・保護者対応」、「保育所の組織性の向上」、「子どもの安全」、「保育士の役割」、「子どもへの援助」であった。これまでの保育士の選択と異なり、主任保育士ならではの園全体をまとめるために必要な知識を求めていることがうかがえる。その他にも、「園内研修」や「保育の今日的課題」といった、主任、園長以外の保育士では選択されてこなかったテーマが挙ってくることがわかった。

vi) 園長

園長が希望するテーマとして選択数が多かったのは、「保育所の組織性の向上」、「保育の今日的課題」、「保護者支援・保護者対応」、「保育行政」、「運営管理」であった。主任保育士と同様に、園全体の運営管理や児童福祉行政に関わるテーマを希望していることがわかった。1位のみでは、先に示された5つのテーマ以外にも「保育士の役割」が挙っていた。

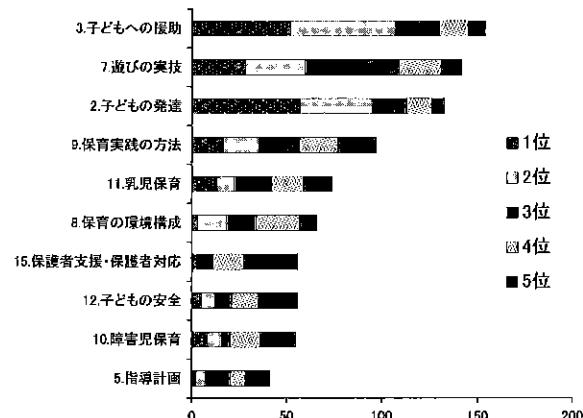


図3-4：初任保育士の園外研修の希望テーマ

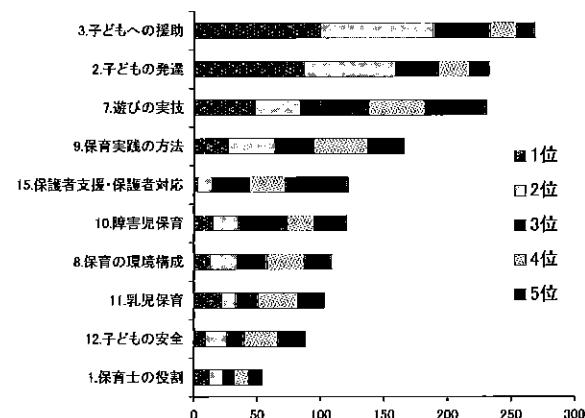


図3-5：中堅前期保育士の園外研修の希望テーマ

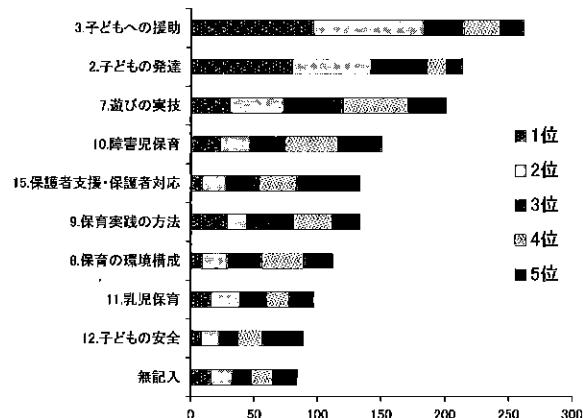


図3-6：中堅後期保育士の園外研修の希望テーマ

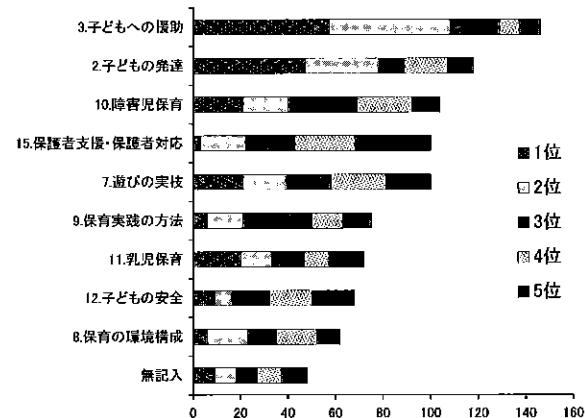


図3-7：15年以上の保育士の園外研修の希望テーマ

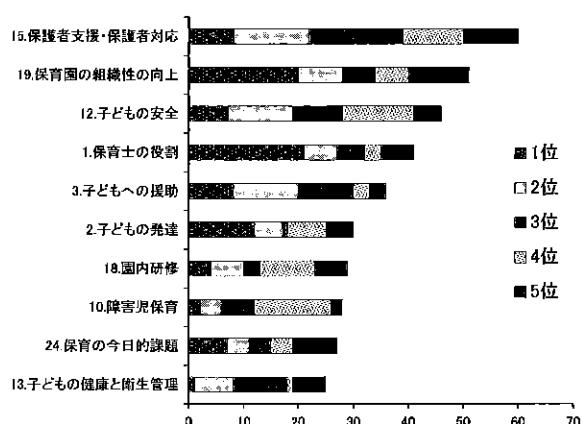


図3-8：主任保育士の園外研修の希望テーマ

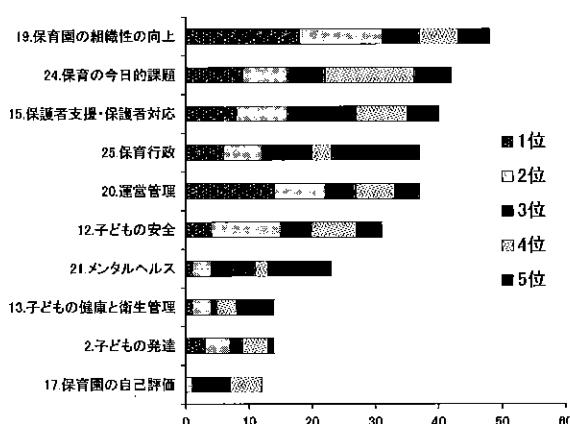


図3-9：園長の園外研修の希望テーマ

4) 園外研修の希望開催日

園外研修に自主的に参加する場合の開催日について、平日の勤務時間中、平日の勤務時間外、日曜日から選択を求めたところ、以下の表のように、平日の勤務時間中という回答が6割程度と多いことがわかった。

表 3-12：園外研修の希望開催日

	平日の勤務時間中	平日の勤務時間外	日曜日	無記入	計
人数(%)	904 (59.4)	393 (25.8)	122 (8.0)	102 (6.7)	1521 (100.0)

5) 園外研修に希望する受講費用

園外研修に自主的に参加する場合の1日当たりの希望する受講費用について、以下の表に示した。無料、もしくは1,000円程度と答える割合がそれぞれ3分の1と多いことがわかった。3,000円またはそれ以上を選択した回答者は少なく、自主的に参加する園外研修における希望受講費用は2,000円以下であるということが明らかになった。

表 3-13：園外研修に希望する受講費用

	無料	1,000円くらい	2,000円くらい	3,000円くらい	3,000円以上でもよい	無記入	計
人数(%)	470 (30.9)	476 (31.3)	321 (21.1)	112 (7.4)	53 (3.5)	89 (5.9)	1521 (100.0)

4 園内研修に対する保育士の意識

1) 園内研修の良さ

園内研修の良さについて、自由記述による回答を求めた。自由記述から、「園内研修の良さ」の大きな枠組みとして、「職員全員での共通理解や再認識ができる」、「園全体の保育の質の向上になる」という2点が挙げられた。「園内研修の良さ」の具体的な内容としては、「同僚だから意見交換がしやすい」、「話題が身近なテーマで具体的に話し合える」、「実践にすぐに生かすことができる」といった回答が多く挙げられた。また、その他の回答として、「自分の保育を振り返り、保育の見通しを持つことができる」といった回答がみられた。

2) 園内研修希望テーマ

「園内研修で学びたいテーマ」として、16項目を示し、希望する順に1位から3位までを選択してもらった。16項目は以下の表3-14の通りである。

まず、全保育士の結果を以下の図に示した。図より、1位から3位までの全てで、希望するテーマとして選択された回数多かったものは、「子どもの発達と援助」、「気になる子」、「遊びの実技」、「保育の環境構成」、「保護者支援・保護者対応」であった。

表 3-14：園内研修の希望テーマ

1.子どもの発達と援助	9.乳児保育
2.保育課程・指導計画	10.障害児保育
3.記録の書き方	11.気になる子
4.エピソード記録	12.子どもの安全、事故予防
5.遊びの実技	13.子どもの健康と衛生管理
6.保育の環境構成	14.食育
7.保育園の行事	15.保護者支援・保護者対応
8.異年齢保育	16.その他

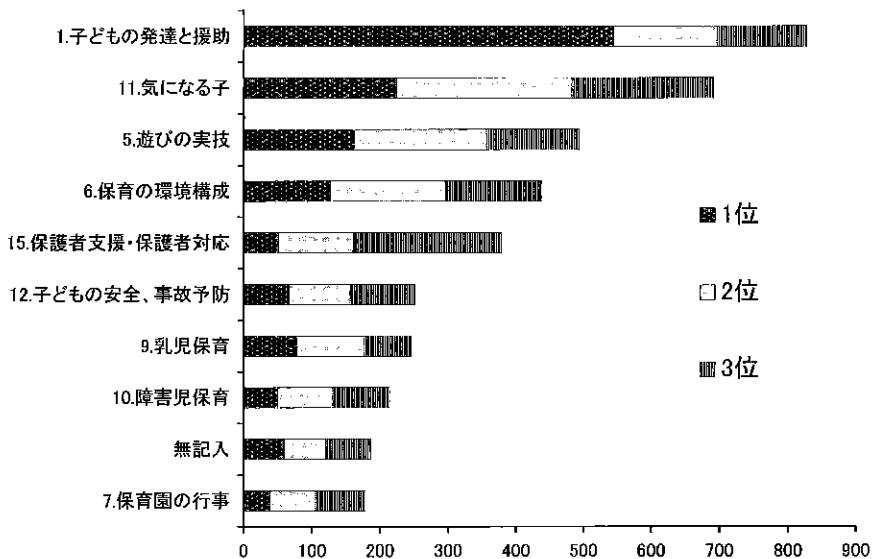


図 3-10：園内研修の希望テーマ

次に、質問 1-(5) で分類した 4 つの経験年数ごとに、園内研修の希望テーマの選択について集計を行った。園長、主任保育士を除く、保育士の経験年数ごとに、0 年以上 3 年未満（初任）、3 年以上 7 年未満（中堅前期）、7 年以上 15 年未満（中堅後期）、15 年以上の保育士のそれぞれの希望テーマを以下の図に示した。加えて、園長、主任保育士についても同様の集計を行い、図に示した。

結果より、園長、主任以外の保育士の中で多く選択されたテーマは、「子どもの発達と援助」、「気になる子」、「遊びの実技」、「保育の環境構成」、「保護者支援・保護者対応」であり、全保育士の集計結果と違いのないことがわかった。園長、主任保育士においては、「遊びの実技」の選択が減り、「子どもの安全・事故予防」が多く選択されてくることが明らかになった。

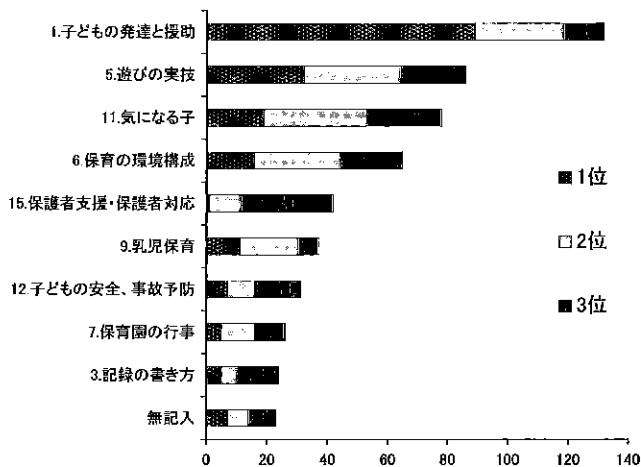


図 3-11：初任保育士の園内研修の希望テーマ

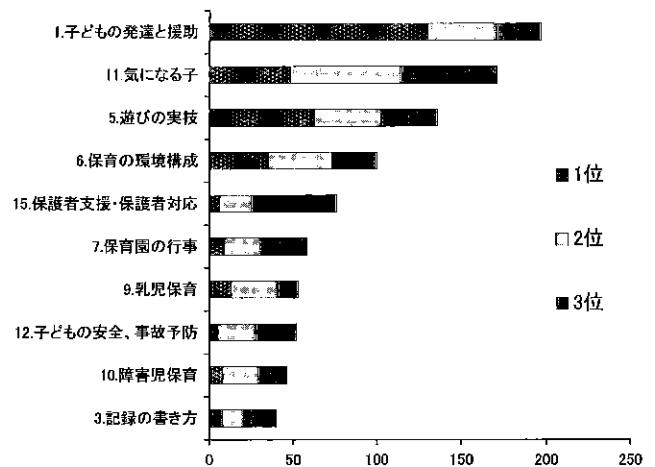


図 3-12：中堅前期保育士の園内研修の希望テーマ

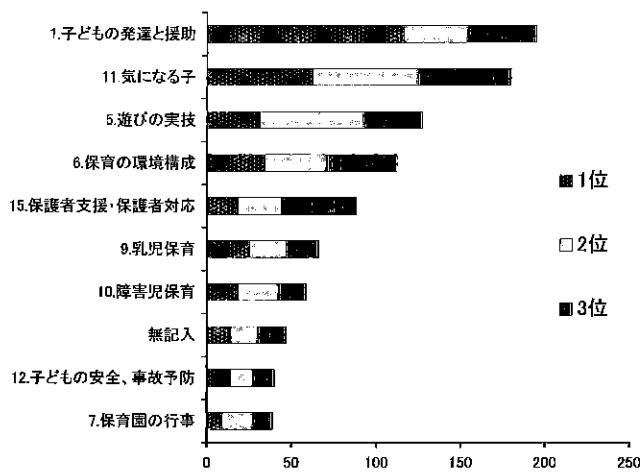


図 3-13：中堅後期保育士の園内研修の希望テーマ

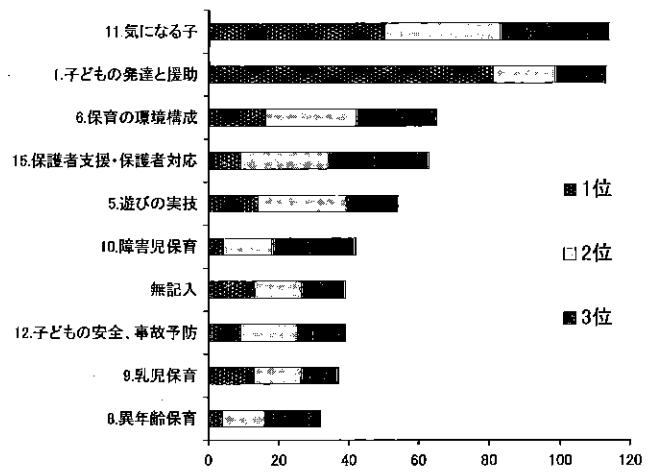


図 3-14：15年以上保育士の園内研修の希望テーマ

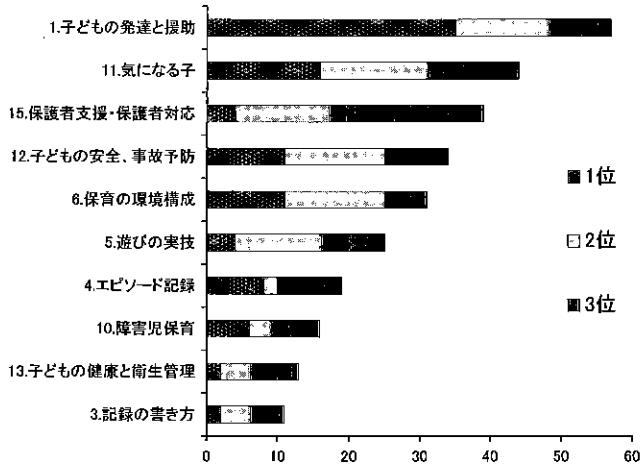


図 3-15：主任保育士の園内研修の希望テーマ

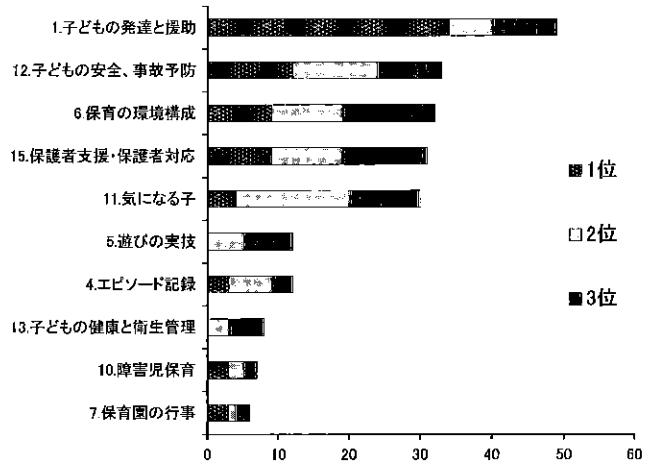


図 3-16：園長の園内研修の希望テーマ

5 育児休業明けの保育士の研修に対する意識

1) 育児休業からの復帰後の希望研修について

育児休業から復帰後 3 年以内の保育士を対象に、希望する研修内容について、自由記述による回答を求めた。回答者は 27 名であった。育児休業から復帰した時に、必要と感じ、研修で学びたいと思った内容として多く挙げられていたのは、「指導計画の立案、保育課程などの変更点」であった。また、「保育の今日的課題」など、保育行政の変化に関する研修希望もみられた。他の回答としては、「子どもの安全」や「遊び」、「実技的な内容」、「保護者支援」、「メンタルヘルス」など、回答者により様々な希望があることが明らかになった。

調査票 B の集計結果

1 回答者の属性

1) 勤務する保育所

園長のみを対象とした調査票 B では、136 名からの回答が得られた。その内訳は、公立保育所の園長 94 名 (69.1%)、民間保育所の園長 42 名 (30.9%) であった。

2) 園長としての経験年数

保育所の園長として勤務した年数をたずねた。園長として平均経験年数は 5.6 年（最短 0 年～最長 35 年、SD=5.9）であった。回答した園長のうち、6 名は保育士経験を 0 年と回答していた。園長経験年数を 0 年以上 3 年未満、3 年以上 7 年未満、7 年以上 15 年未満、15 年以上の 4 つの区切りで分類したところ、以下の表のような分布がみられた。（※保育士としての経験年数と思われる回答は省いた。）

表 3-15：園長としての経験年数

	0年以上～ 3年未満	3年以上～ 7年未満	7年以上～ 15年未満	15年以上	経験年数と 同数	計
人数 (%)	38 (27.9)	53 (39.0)	25 (18.4)	9 (6.6)	11 (8.1)	136 (100.0)

2 園外研修に対する意識

1) 園外研修後の報告状況

回答者の勤務する保育所での園外研修後の報告状況を以下の図に示した。調査票 A の集計結果と同様に、「文書報告」の割合が 8 割以上と高いのに対し、「口頭報告」が 3 割程度と低いことが明らかになった。口頭報告を行う際の伝達時間は、20 分未満が約半数、20 分から 60 分未満が 2 割以上となっていた。園内伝達については、8 割以上の園で実施していると答えていた。

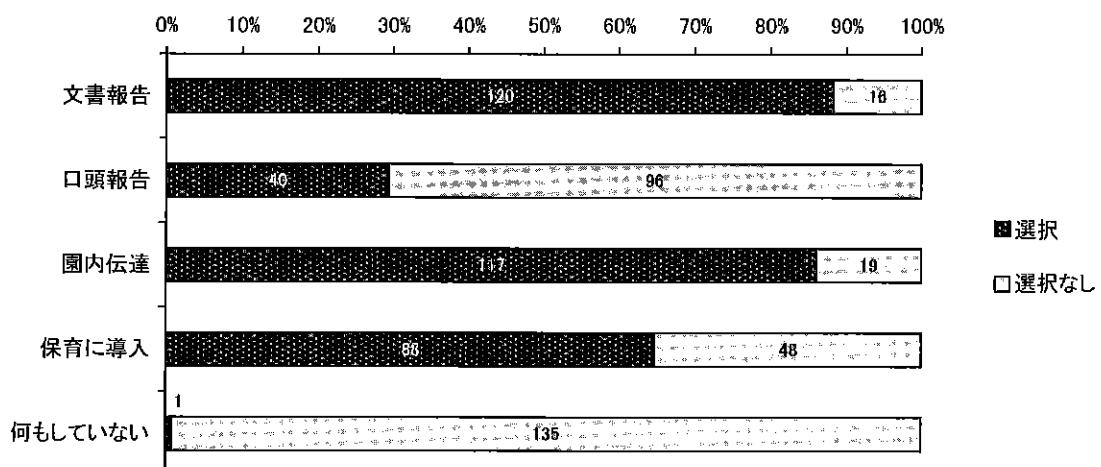


図 3-17：園内研修後の報告状況

表 3-16：園外研修後の報告時間

園内伝達	0分～ 20分未満	20分～ 60分未満	60分～	その他	無記入	計
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
園内伝達	71 (52.2)	34 (25.0)	4 (2.9)	1 (0.7)	26 (19.1)	136 (100.0)

2) 園外研修への参加意欲

「園外研修にあなたの保育所の保育士を参加させたいと思っていますか。」という質問で、保育士を園外研修に参加させる意欲についてたずねた。結果を以下の表に示した。表より「できる限り参加させたい」という回答が7割、「機会があれば参加させたい」という回答が2割以上であり、あわせるとほぼ全ての回答者が園外研修へ保育士を参加させたいと答えていた。

表 3-17：園外研修への参加意欲

人数 (%)	できる限り 参加させたい	機会があれば 参加させたい	あまり参加 させたくない	無記入	計
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
136 (100.0)	96 (72.1)	36 (26.5)	1 (0.7)	1 (0.7)	136 (100.0)

3) 園外研修に期待する効果

「あなたの保育所の保育士を園外研修に参加させることで、どのような効果を期待しますか。」という質問で、園外研修に期待する効果についてたずねた。回答の分布を以下の表に示した。割合としては、「理論と実践を結びつける」という回答が多く、次いで「保育所や自身の課題発見」という回答が挙がった。

表 3-18：園外研修に期待する効果

	現場で すぐ役立つ 保育技術	理論を 新たに学ぶ、 再確認する	理論と実践を 結びつける	保育園や 自身の 課題発見	行政や社会の 最新動向	無記入	計
人数	11	11	81	25	0	8	136
(%)	(8.1)	(8.1)	(59.6)	(18.4)	(0.0)	(5.9)	(100.0)

4) 園外研修の希望テーマ

園外研修の希望テーマについて、「あなたの保育所の保育士が、保育士（または主任保育士）として成長するために必要と考える園外研修のテーマ」として 25 項目を示し、初任保育士、中堅前期保育士、中堅後期保育士、主任保育士の経験ステージ別に、園長が必要だと考える順に 1 位から 3 位までを選択してもらった。経験ステージ別に以下の図に示した。また、担当別に、園長が必要だと考える順に 1 位から 3 位までを選択してもらった。その結果として、選択の多かった 10 のテーマを職階別と担当別に、次ページ以降に図示した。

表 3-19：園外研修の希望テーマ

1.保育士の役割	14.食育
2.子どもの発達	15.保護者支援・保護者対応
3.子どもへの援助	16.保育士の自己評価
4.保育課程	17.保育園の自己評価
5.指導計画	18.園内研修
6.保育の記録	19.保育園の組織性の向上
7.遊びの実技	20.運営管理
8.保育の環境構成	21.メンタルヘルス
9.保育実践の方法	22.小学校との連携
10.障害児保育	23.地域との連携
11.乳児保育	24.保育の今日的課題
12.子どもの安全	25.保育行政
13.子どもの健康と衛生管理	

i) 0 年以上 3 年未満（初任保育士）

初任保育士に必要だと考える園外研修のテーマとして選択数が多かったのは、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「保育士の役割」、「指導計画」、「遊びの実技」であった。また、1 位に選択されたテーマのみをみると、「子どもの発達」が非常に多く選ばれており（37.5%）、次いで「保育士の役割」（26.5%）、「子どもへの援助」（10.3%）の順に選ばれていることがわかった。

ii) 3 年以上 7 年未満（中堅前期保育士）

中堅前期保育士に必要だと考える園外研修のテーマとして選択数が多かったのは、「保育実践の方法」、「保育の環境構成」、「子どもへの援助」、「指導計画」、「保育の記録」であった。1 位に選択されたテーマのみをみると、「子どもへの援助」（18.4%）、「保育士の役割」（15.4%）、「子どもの発達」（14.0%）の順に選択が多く、「保育の環境構成」（9.6%）、「保育の記録」（4.4%）は、1 位から 3 位までの選択数は多いが、1 位で選択する回答者が少ないことが明らかになった。

iii) 7年以上（中堅後期保育士）

中堅後期保育士に必要だと考える園外研修のテーマとして選択数が多かったのは、「保護者支援・保護者対応」「保育士の自己評価」、「保育士の役割」、「保育所の組織性の向上」、「保育実践の方法」、であった。1位に選択されたテーマのみをみると、「保育士の役割」が多く選ばれており（16.9%）、次いで「保育士の自己評価」、「保育実践の方法」、「保育の環境構成」が同数選択されていた（10.3%）。「保護者支援・保護者対応」は、1位で選択する回答者が、6.6%と比較的少ないことが明らかになった。

iv) 主任保育士

主任保育士に必要だと考える園外研修のテーマとして選択数が多かったのは、「保育所の組織性の向上」、「保護者支援・保護者対応」、「園内研修」、「保育士の役割」、「子どもの安全、事故予防」であった。1位のみでみても、同様に「保育所の組織性の向上」（20.6%）、「保育士の役割」（14.7%）、「保護者支援・保護者対応」（14.0%）、「園内研修」（11.8%）の4つのテーマが多く選択されていることがわかり、主任保育士に必要だと考えるテーマは回答者間で共通している様子がうかがえた。

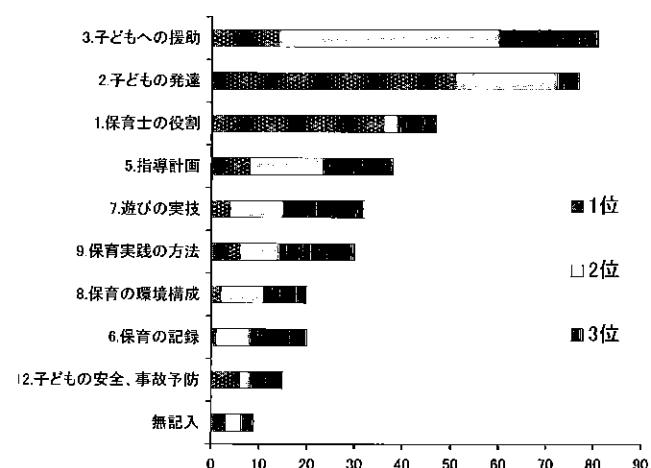


図 3-18：初任保育士に必要な研修テーマ

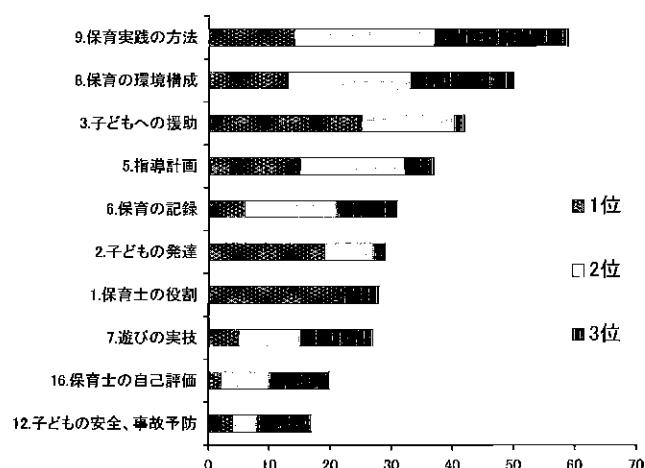


図 3-19：中堅前期保育士に必要な研修テーマ

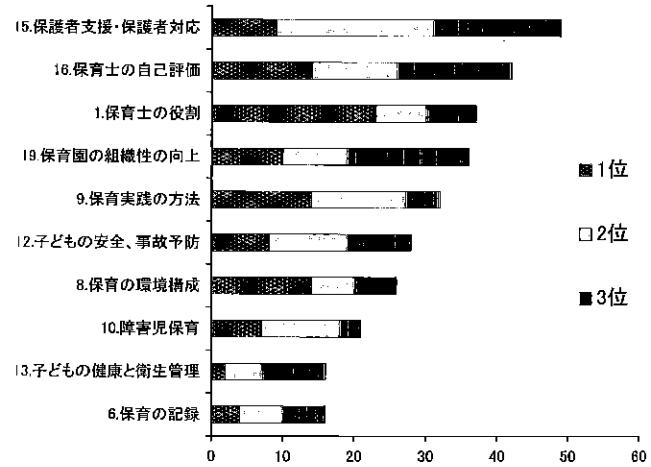


図 3-20：中堅後期保育士に必要な研修テーマ

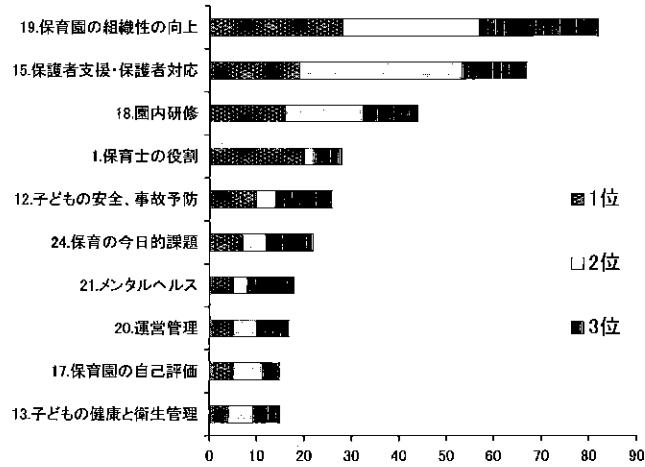


図 3-21：主任保育士に必要な研修テーマ

v) 障害児担当

障害児を担当する保育士に必要だと考える園外研修のテーマとして選択数が多かったのは、「障害児保育」、「保護者支援・保護者対応」、「子どもへの援助」、「子どもの発達」、「保育の環境構成」であった。1位のみでみると「障害児保育」が、66.9%と非常に多く選択されていることが明らかであり、残りは「子どもの発達」(16.2%)、「子どもへの援助」(4.4%) の3つのテーマにほぼ集中することがわかった。

vi) 乳児担当

乳児を担当する保育士に必要だと考える園外研修のテーマとして選択数が多かったのは、「乳児保育」、「子どもの安全、事故予防」、「子どもの発達」、「子どもへの援助」、「保護者支援・保護者対応」であった。1位のみでみると「乳児保育」が、67.4%と非常に多く選択されていることが明らかであり、残りは「子どもの発達」(19.1%)、「子どもの援助」(3.6%)、「子どもの安全、事故予防」(2.9%) の4つのテーマにほぼ集中することがわかった。

vii) 幼児クラス担当

幼児クラスを担当する保育士に必要だと考える園外研修のテーマとして選択数が多かったのは、「保育実践の方法」、「子どもへの援助」、「保育の環境構成」、「子どもの発達」、「遊びの実技」であった。1位のみでみると、同様に「子どもの発達」(30.8%) が多く、次いで「保育実践の方法」と「子どもへの援助」(14.7%) が同数あり、「保育の環境構成」(11.8%) の4つのテーマが多く選択されていることがわかった。

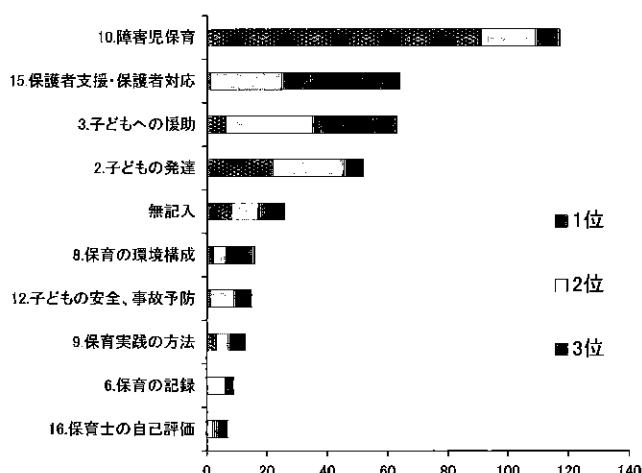


図 3-22：障害児担当保育士に必要な研修テーマ

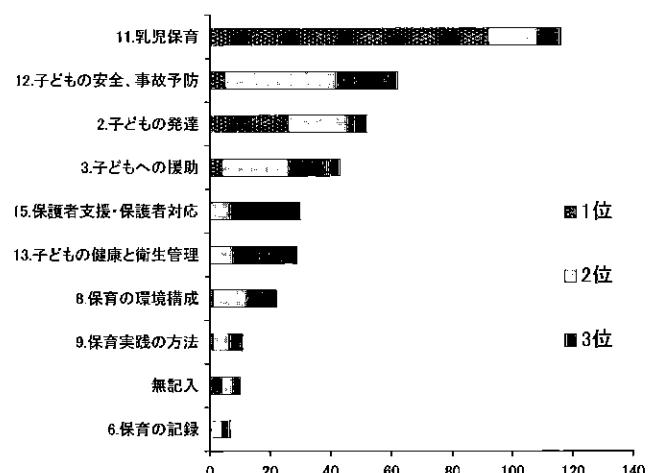


図 3-23：乳児担当保育士に必要な研修テーマ

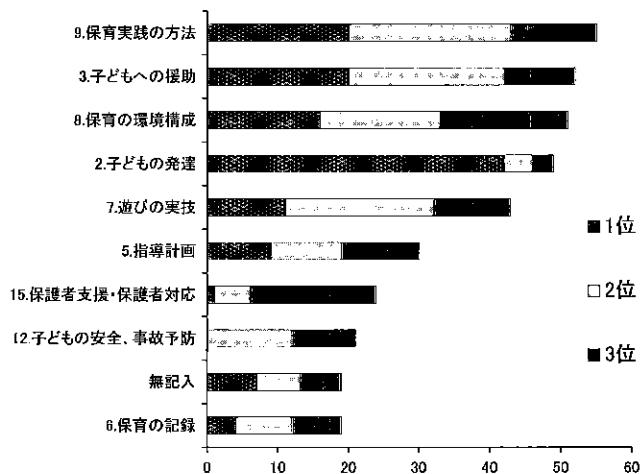


図 3-24：幼児担当保育士に必要な研修テーマ

3 園内研修に対する意識

1) 園内研修の良さ

園内研修の良さについて、自由記述による回答を求めた。全保育士を対象とした結果と同様、「園内研修の良さ」の大きな枠組みとして、「職員全員での共通理解や再認識ができる」、「園全体の保育の質の向上になる」という2点が挙げられた。「園内研修の良さ」の具体的な内容も、「同僚だから意見交換がしやすい」、「話題が身近なテーマで具体的に話し合える」、「実践にすぐに生かすことができる」といった回答が多く挙げられた。その他、「自園の課題を発見できる」といった回答が、全保育士を対象とした時よりも多く見られた。

2) 園内研修希望テーマ

「園内研修でテーマとしたい内容」として、16項目を示し（表 3-20）、希望する順に1位から3位までを選択してもらった。結果を以下の図に示した。図より、1位から3位までで希望するテーマとして選択された回数が多かったものは、「子どもの発達と援助」、「気になる子」、「保育の環境構成」、「子どもの安全、事故予防」、「保護者支援・保護者対応」であった。

表 3-20：園内研修の希望テーマ

1.子どもの発達と援助	9.乳児保育
2.保育課程・指導計画	10.障害児保育
3.記録の書き方	11.気になる子
4.エピソード記録	12.子どもの安全、事故予防
5.遊びの実技	13.子どもの健康と衛生管理
6.保育の環境構成	14.食育
7.保育園の行事	15.保護者支援・保護者対応
8.異年齢保育	16.その他

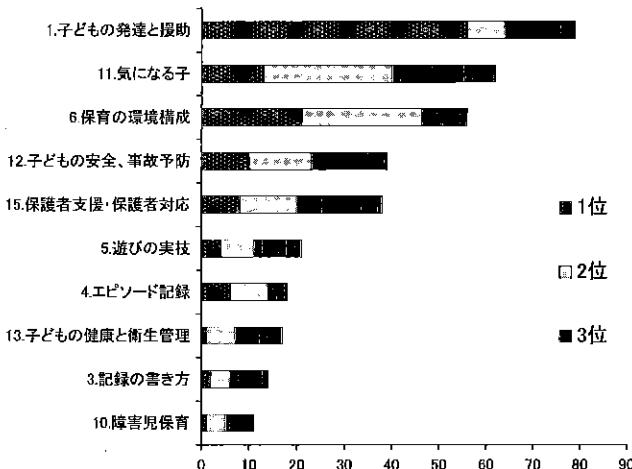


図 3-25：園内研修の希望テーマ

3) 園内研修で活用したい媒体

園内研修で活用したい媒体について、複数回答で選択を求めた結果を以下の表に示した。表より、活用したい媒体としては、紙媒体と視聴覚教材が多く選択されており、インターネット映像はそれと比較すると非常に少ないことが明らかになった。

表 3-21：園内研修で活用したい媒体

	紙媒体	視聴覚教材	インターネット映像	その他	特になし	計
人数 (%)	119 (87.5)	102 (75.0)	28 (20.6)	10 (7.4)	5 (3.7)	136 (100.0)

4 平成 24 年度の園内研修の実施状況

1) 園内研修実施の有無

平成 24 年度の園内研修の実施の有無について、以下の表に示した。多くの保育所で園内研修を実施していることがわかった。

表 3-22：園内研修実施の有無

	実施した	実施していない	無記入	計
人数 (%)	120 (88.2)	5 (3.7)	11 (8.1)	136 (100.0)

2) 園内研修の実施頻度

平成 24 年度の園内研修の実施頻度について、以下の図に示した。「月 1 回」とする回答が多かった。次いで、「月 2 回」、「隔月」の順に多いことが示された。

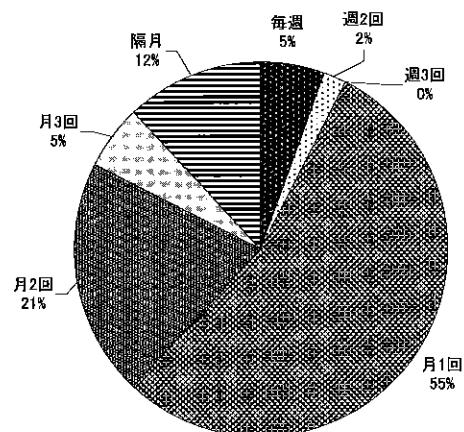


図 3-26：園内研修の実施頻度

3) 園内研修の実施時間

園内研修 1 回の平均的な時間について、以下の図に示した。「1 時間」とする回答が 4 割以上と多く、次いで、「30 分」、「1.5 時間～2 時間」という順に多い結果となった。

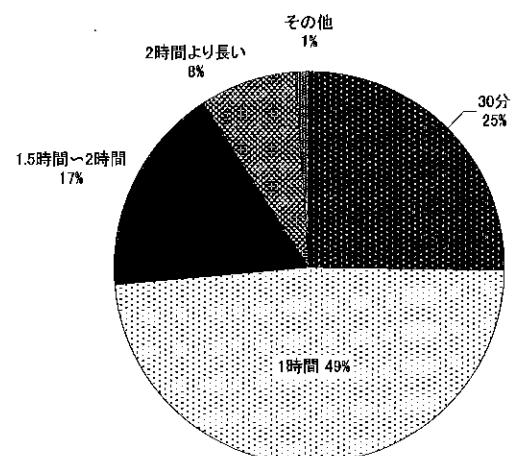


図 3-27：園内研修の実施時間

4) 実施した園内研修のテーマ

「実施した研修」として、上述した希望テーマと同様の 16 項目を示し(表3-20)、当てはまる番号を選択してもらった。当てはまらない場合は、「その他」として、テーマを記述してもらった。結果を以下の図に示した。

図より、園内研修では、「子どもの発達と援助」、「子どもの安全、事故予防」、「遊びの実技」、「気になる子」といったテーマが挙げられていることが明らかになった。「その他」の多くは、「リズム」や「絵本」、「描画」といった内容と、「保育士の自己評価」が挙げられていた。

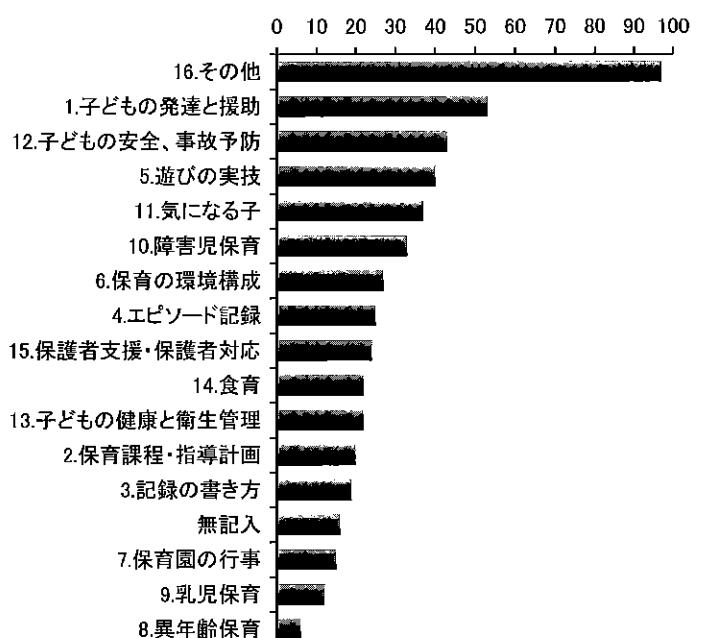


図 3-28：実施した園内研修のテーマ

5) 研修対象・研修形態

園内研修の対象を以下の表に示した。「ほぼ全員」を選択した回答が 7 割以上であった。残りは、「乳児担当 保育士」や「3 歳児クラス担任」のような、「担当別」の園内研修や、「正規職員のみ」という回答であった。「その他」としては、気になる子の事例検討を、対象児のクラス担任を中心に実施したり、経験年数別に研修を実施したという回答が挙がっていた。

表 3-23:園内研修の研修対象

	ほぼ全員	正規職員のみ	担当別	その他	無記入	計
研修数 (%)	378 (74.0)	34 (6.7)	65 (12.7)	28 (5.5)	6 (1.2)	511 (100.0)

園内研修の研修形態については、以下の表 3-24 に示した選択肢より、選択してもらった(複数回答可)。結果を表 3-25 に示した。研修形態としては、「演習」が最も多く選択されており、報告された 511 の研修の 6 割が「演習」の形態をとっていた。その他の形態は、それぞれ全体の 2 割程度となり、園内研修においても、様々な研修形態が採られていることが明らかになった。

表 3-24:研修形態の選択肢

研修形態	説明
講義	目標を設定するとともに、その達成に必要な内容を事前に検討し、レジュメ等を用意した上で実施するもの
講話	園長・主任保育士などが、その時々に必要な事項を伝えるもの
演習	グループワーク・討議(集団でのワーク・討議)、事例検討、文献学習(読書会)、共同研究、公開保育など
実技・実習	技術・実技などを実際にを行うもの(例:リズム遊び、体育遊び、AED操作)

表 3-25:園内研修の研修形態

	講義	講話	演習	実技・実習	その他
研修数 (%)	128 (25.0)	146 (28.6)	346 (67.7)	124 (24.3)	62 (12.1)

5 育児休業明けの保育士の研修に対する意識

1) 育児休業からの復帰後の保育士に必要な研修について

育児休業から復帰した保育士を支えるために、必要な研修として多く挙げられていたのは、「保育の今日的課題」や「保育現場の現状」など、保育行政や現場の変化に関する研修であった。加えて、「メンタルヘルス」の研修の希望も多く挙っていた。「指導計画」や「子どもの発達と援助」、「子どもの安全」、「保護者支援」といった研修の必要性についても述べられていた。

4. 資料

- 1) 他団体調査
- 2) 保育士調査（調査票A・B）

保育士研修に関する調査 回答用紙

※3 講義名やテーマ等を記載してください。

団体名 _____
担当者名 _____
電話番号 _____

※4 当該研修で資質向上を図っている専門性を全国保育士会「保育士の研修体系」：「保育士の階層別に求められる専門性」にある専門性から該当するものを選択してください。1., 2., 3. (1), 3. (2), 3 (3), 4. の各系列ごとに2項目ずつ選択し□欄にレ点を付けて下さい。

当資料では、階層別に分類されている専門性もありますが、異なる階層に属するものであっても、実際に当該研修で向上を図っているのであれば、(例：初任者のみをお象とした研修であっても、当資料で中堅職員の専門性として分類されている「虐待ケースへの対応」の向上を図っているのであれば、記載が必要となります)。また、当資料にある専門性以外にも、該当するものがありますたら、カッコ書きで記載してください。

※5 当該研修の特徴や工夫を施している点など、PRポイントを記載してください。

※6 條款研修実施の場合、次の2, 3の問い合わせの回答は複数記入の必要がございません。

1枚の回答で結構です。

研修名		
対象者 経験年数 (※2)	従事施設 (※1) 公立保育所、民間保育所、認可外保育施設	
	専門分野	
研修期間・時間	日間	時間
研修内容 (※3)		
資質向上を図っている専門性 (※4)		
※複数の研修を実施している場合、別紙表もコピーし、該当項目の□欄にレ点を付けてご回答ください。		
研修方法 (※1)	形態	講義形式、演習形式、実技・実習形式
	方法	事例研究、ワークショップ、グループ討論、その他
PRポイント (※5)		
参加費用	円	参加者数 名

※1 該当するものに○を付けてください。

※2 経験年数・経験ステージ (初任者、主任保育士など) や専門分野 (障害児担当、乳児担当など) などで限定がある場合は、対象者を詳細に記載してください。

回答ご協力ありがとうございました。

調査票A

保育士研修に関する意識調査

(2) 今年度、国外研修に参加した回数を教えてください。①～③それについて、回数を記載してください。

- ①市町村主催の研修 _____回
- ②市町村外への派遣研修 _____回
- ③自主的に参加した研修 _____回

(3) 国外研修後の報告・伝達について教えてください。当ではまるものすべてに〇を付けてください。

市町村番号	_____
-------	-------

1 あなたについてお聞きします。(1)～(4)及び(6)は、当ではまるもの1つに〇を付けてください。(5)は年数を記載してください。

(1) 勤務する保育園(所)は ①公立 ②私立

①園長 ②主任保育士 ③保育士

(2) 職名は ①正規職員→(5)へ

②臨時職員→(4)へ

(4) 臨時職員の方にお聞きします。

勤務時間・勤務日数は ①正規職員とほぼ同じ

②おおよそ1日6時間～7時間×月20日の勤務

③①②より短い勤務(短時間勤務)

④その他()

(5) 保育園の保育士としての経験年数(※)は()年

※保育園の保育士として働いた年数をすべて合計してください。

※産前・産後休暇中及び育児休業中の期間は含めないでください。

※園長、主任保育士としての経験年数ではありません。

(6) 園長・主任保育士以外の方にお聞きします。

あなたの担当は ①乳児クラス担当 ②幼児クラス担当

③障害児担当 ④フリー ⑤その他()

(3) あなたが保育士(または園長・主任保育士)として成長するために必要な国外研修のテーマを、下表の①～⑥から、強く思う順に5つ選び、以下に記載してください。

強く思う順位	1	2	3	4	5
番号					

番号	テーマ	主な内容
①	保育士の役割	保育士の業務、新任・中堅・主任等としての役割など
②	子どもの発達	子どもの発達、子ども理解など
③	子どもへの援助	援助（子どもへのかわり）のあり方・視点など

2 国外研修(※)への参加状況などについて、お聞きします。

※国外研修とは、国内研修以外のものすべてです。市町村主催の研修や、市町村外への派遣研修のほか、自主的に参加する研修も含みます。ただし、会議は含みません。(なお、国内研修は、あなたの保育園が、あなたの保育園の職員を対象として行う研修です。)

(1) 今年度、国外研修に参加しましたか。どちらか1つに〇を付けてください。

- ①参加した
- ②参加していない → 3へ

④ 保育課程	基本的な考え方、立案方法など
⑤ 指導計画	基本的な考え方、立案方法、実践との結びつきなど
⑥ 保育の記録	保育の記録の意義、記録の視点、記録の生かし方など
⑦ 遊びの実技	音楽リズム、運動遊び、手遊び、絵画制作、表現遊び、自然遊びなど
⑧ 保育の環境構成	保育室や戸外遊びなどの物的環境の整備、人的環境のあり方など
⑨ 保育実践の方法	保育現場で実践方法（子どもへのかがわり、声かけ、集団形成の方法など）を学ぶ（公開保育など）
⑩ 厚生児保育	厚生児保育の基礎知識、統合保育、指導計画・実践、保健者支援、事例検討など
⑪ 乳児保育	乳児保育の基礎知識、環境構成、指導計画・実践、保健士連携など
⑫ 子どもの安全、事故予防	ヒヤリハット、SIDS、災害対策、不審者対策、救命法など
⑬ 子どもの健栄と衛生管理	健康管理、衛生管理、感染症対策、食物アレルギー、エビデンスの使用法など
⑭ 食育	食育計画、実践方法、取組み事例など
⑮ 保護者支援・保護者対応	子育て支援・相談、保護者の心理、保護者を取り巻く社会状況や傾向など
⑯ 保育士の自己評価	基本的な考え方、自分自身の保育の振り返りなど
⑰ 保育園の自己評価	基本的な考え方、自分の保育園の保育内容の評価など
⑱ 園内研修	園内研修の取り組み方、方法など
⑲ 保育園の組織性の向上	他の保育士との協働、人材育成、後輩指導など
⑳ 運営管理	保育園の運営・管理、リスクマネジメント
㉑ メンタルヘルス	心の健康の維持、離職防止など
㉒ 小学校との連携	小学校へのアプローチカリキュラムの考え方、日常的な連携・実践など
㉓ 地域との連携	地域の子育て支援、関係機関との連携など
㉔ 保育の今日的課題	社会情勢の変化やガイドライン等に関する情報、今日の保育のあり方など
㉕ 保育行政	保育に関する法令、国の制度・政策など

(4) (3) のテーマの園外研修に自主的に参加する場合、開催日はいつがいいですか。1

つに○を付けください。

①平日（土曜日含む）の勤務時間中

②平日（土曜日含む）の勤務時間外

③日曜日

(5) (3) のテーマの園外研修に自主的に参加する場合、1日当たりの受講費用は、いくらぐらいが適当だと思いますか。1つに○を付けてください。

①無料

②1000円くらい

③2000円くらい

④3000円くらい

⑤3000円以上でもよい

4 園内研修（※）についてお聞きします。

※園内研修とは、あなたの保育園が、あなたの保育園の員員を対象として行う研修です。

(1) 園内研修の良さはどんなことだと思いますか。

（2）園内研修で学びたいテーマはどんなことですか。下表の①～⑩から、強く思う順に3つ選び、以下に記載してください。

※3（3）のテーマとは異なりますので、ご注意ください。

番号	強く思う順位	1	2	3
番号				

番号	テーマ	主な内容
①	子どもの発達と援助	子どもの発達に合わせた援助（子どもへのかかわり）の視点・方法など
②	保育課程・指導計画	基本的な考え方、立案方法、小学校へのアプローチカリキュラムなど
③	記録の書き方	保育の記録の書き方など
④	エピソード記録	エピソード記録の生き方など
⑤	遊びの実技	音楽リズム、運動遊び、手遊び、絵画制作、表現遊び、自然遊びなど
⑥	保育の環境構成	保育室や戸外遊びなどの物的環境の整備、人的環境のあり方など
⑦	保育園の行事	行事のあり方、進め方など

⑧ 異年齢保育	異年齢クラス・異年齢交流・縦割り保育の視点・方法など
⑨ 乳児保育	乳児の発達に合わせた援助の視点・方法、環境構成、保育土連携など
⑩ 障害児保育	障害児保育の基礎知識、統合保育、保護者支援など
⑪ 気になる子	気になる子への対応、集団形成など
⑫ 子どもの安全、事故予防	ヒヤリハット、災害対策、不審者対策、虐待対応、救命法など
⑬ 子どもの健康と衛生管理	健康管理、衛生管理、感染症対策、食物アレルギーなど
⑭ 食育	基本的な考え方、食育計画、実践方法など
⑮ 保護者支援・保護者対応	保護者対応（話の聞き方・伝え方）、子育て相談など
⑯ その他	(具体的に⇒)

5 育児休業から復帰後、3年以内の方にお聞きします。
育児休業から復帰した時に、すぐに必要を感じ、研修で学びたいと思った内容はどんなことですか。

ありがとうございました。

調査票

保育士研修に関する意識調査

保育士に対する研修についての園長先生のお考えについての調査にご協力ください。

この調査は、愛知県及び保育コンソーシアムあいちにおいて、保育士研修のあり方について検討するための基礎資料を得ることを目的として実施するものであり、その他の目的に使用することはありません。

市町村番号

1 あなたについてお聞きします。（1）はどちらか1つに○を付けてください。（2）は年数を記載してください。

(1) 勤務する保育園（所）は ①公立 ②私立

(2) 保育園の園長としての経験年数は () 年

2 園外研修（※）についてのお考えをお聞きします。

※園外研修とは、園内研修以外のものすべてです。市町村主催の研修や、市町村外への派遣研修のほか、自主的に参加する研修も含みます。ただし、会議は含みません。（なお、園内研修は、あなたの保育園が、あなたの保育園の職員を対象として行う研修です。）

(1) あなたの保育園では、保育士が園外研修に参加した後の報告や伝達、活用について、どのようにしていますか。当てはまるものすべてに○を付けてください。

①上司（園長・主任保育士）または市町村に文書で報告することとしている

②上司（園長・主任保育士）または市町村に口頭で報告することとしている

③園内で研修の内容を他の保育士に伝達する場を作っている⇒伝達時間：() 分くらい

④日々の保育に取り入れるように指示している

⑤特に何もしていない

(2) 園外研修にあなたの保育園の保育士を参加させたいと思っていますか。1つに○を付けてください。

①できる限り参加させたい ②機会があれば参加させたい

③あまり参加させたくない

1

(3) あなたの保育園の保育士を園外研修に参加させることで、どのような効果を期待しますか。最も強く期待するもの1つに○を付けてください。

①現場すぐに役立つ保育技術を身につける

②保育の専門的な知識（理論）を新たに学んだり、再確認をする

③保育の専門的な知識（理論）と実践を結びつけて考えられるようになる

④自分の保育園や自分自身の課題を見出す

⑤行政や社会の最新動向を把握する

(4) あなたの保育園の保育士が、保育士（または主任保育士）として成長するために必要と考える園外研修のテーマを、下表の①～⑩から、経験ステージ別・担当別に、強く思う順に3つ選び、以下に記載してください。

ア 経験ステージ別

ステージ (※)	初任保育士 (1～2年目)			中堅前期保育士 (3～6年目)			中堅後期保育士 (7年目～)			主任保育士		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
強く思う順位												
番号												

※年数はおよそのめやすです。あなたの保育園の状況に応じて年数は変えてください。

イ 担当別（各担当者の経験ステージではなく、担当に視点を当てた回答をお願いします。）

担当	障害児担当			乳児担当			幼児クラス担当		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
強く思う順位									
番号									

番号	テーマ	主な内容					
		①	②	③	④	⑤	⑥
①	保育士の役割	保育士の業務、新任・中堅・主任等としての役割など					
②	子どもの発達	子どもの発達、子ども理解など					

③	子どもへの援助	援助（子どもへのかかわり）のあり方・視点など
④	保育課程	基本的な考え方、立案方法など
⑤	指導計画	基本的な考え方、立案方法、実践との結びつきなど
⑥	保育の記録	保育の記録の意義、記録の視点、記録の生かし方など
⑦	遊びの実技	音楽リズム、運動遊び、手遊び、絵画制作、表現遊び、自然遊びなど
⑧	保育の環境構成	保育室や戸外遊びなどの物的環境の整備、人的環境のあり方など
⑨	保育実践の方法	保育現場で実践方法（子どもへのかかわり、声かけ、集団形成の方法など）を学ぶ（公開保育など）
⑩	障害児保育	障害児保育の基礎知識、統合保育、指導計画・実践、保護者支援、事例検討など
⑪	乳児保育	乳児保育の基礎知識、環境構成、指導計画・実践、保育士連携など
⑫	子どもの安全、事故予防	ヒヤリハット、SIDS、災害対策、不審者対策、救命法など
⑬	子どもの健康と衛生管理	健康管理、衛生管理、感染症対策、食物アレルギー、エピペンの使用法など
⑭	食育	食育計画、実践方法、取組み事例など
⑮	保護者支援・保護者対応	子育て支援・相談、保護者の心理、保護者を取り巻く社会状況や傾向など
⑯	保育士の自己評価	基本的な考え方、自分自身の保育の振り返りなど
⑰	保育園の自己評価	基本的な考え方、自分の保育園の保育内容の評価など
⑱	園内研修	園内研修の取り組み方、方法など
⑲	保育園の組織性の向上	他の保育士との協働、人材育成、後輩指導など
⑳	運営管理	保育園の運営・管理、リスクマネジメント
㉑	メンタルヘルス	心の健康の維持、離職防止など
㉒	小学校との連携	小学校へのアプローチカリキュラムの考え方、日常的な連携・実践など
㉓	地域との連携	地域の子育て支援、関係機関との連携など
㉔	保育の今日的課題	社会情勢の変化やガイドライン等に関する情報、今日の保育のあり方など
㉕	保育行政	保育に関する法令、国の制度・政策など

3

3 園内研修（※）についてのお考えについて、お聞きします。

※園内研修とは、あなたの保育園が、あなたの保育園の職員を対象として行う研修です。

(1) 園内研修の良さはどんなことだと思いますか。

(2) 園内研修でテーマとしたい内容はどんなことですか。下表の①～⑩から、強く思う順に3つ選び、以下に記載してください。

※2 (4) のテーマとは異なりますので、ご注意ください。

強く思う順位	1	2	3
番号			

番号	テーマ	主な内容
①	子どもの発達と援助	子どもの発達に合わせた援助（子どもへのかかわり）の視点・方法など
②	保育課程・指導計画	基本的な考え方、立案方法、小学校へのアプローチカリキュラムなど
③	記録の書き方	保育の記録の書き方など
④	エピソード記録	エピソード記録の生かし方など
⑤	遊びの実技	音楽リズム、運動遊び、手遊び、絵画制作、表現遊び、自然遊びなど
⑥	保育の環境構成	保育室や戸外遊びなどの物的環境の整備、人的環境のあり方など
⑦	保育園の行事	行事のあり方、進め方など
⑧	異年齢保育	異年齢クラス・異年齢交流・縦割り保育の視点・方法など
⑨	乳児保育	乳児の発達に合わせた援助の視点・方法、環境構成、保育士連携など
⑩	障害児保育	障害児保育の基礎知識、統合保育、保護者支援など
⑪	気になる子	気になる子への対応、集団形成など

(12)	子どもの安全、事故予防	ヒヤリハット、災害対策、不審者対策、虐待対応、救命法など
(13)	子どもの健康と衛生管理	健康管理、衛生管理、感染症対策、食物アレルギーなど
(14)	食育	基本的な考え方、食育計画、実践方法など
(15)	保護者支援・保護者対応	保護者対応（話の聞き方・伝え方）、子育て相談など
(16)	その他	（具体的に⇒）

(3) 園内研修で活用したい媒体はありますか。活用したいものすべてに○を付けてください。

- ①冊子、文献、文章等の紙媒体
- ②DVD やビデオなどの視聴覚教材
- ③インターネットによる映像配信
- ④その他（ ）
- ⑤特にない

4 あなたの保育園の園内研修の24年度の実施結果についてお聞きします。

(1) 園内研修を実施しましたか。どちらか1つに○を付けてください。

- ①実施した→(2)へ
- ②実施しなかった→5へ

(2) 園内研修をだいたいどの程度実施しましたか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

毎週	週2回	週3回	月1回	月2回	月3回	隔月	その他（具体的に）

(3) 研修1回当たりの平均実施時間はどの程度でしたか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

30分くらい	1時間くらい	1. 5時間から2時間くらい	2時間より長い

(4) 実施した研修テーマと、その研修対象・研修形態を以下の表に記載してください。（実施したテーマすべてを記載してください。）

研修 テーマ (※1)	研修対象 (※2)		研修形態 (定義は(※3)のとおり。当てはまる形態すべてに○を記載してください。)							実技・実習		
	ほぼ 全員	対象を限定した (具体的に)	講義	講話	グループワ ーク・討議	事例 検討	文献学習 (読書会)	共同 研究	公開 保育	その他 (具体的に)	実技	実習

(※1) 下表の①～⑯から当てはまる番号を記載してください。当てはまるものがない場合は、テーマを直接記載してください。

番号	テーマ	主な内容
①	子どもの発達と援助	子どもの発達に合わせた援助（子どもへのかかわり）の視点・方法など
②	保育課程・指導計画	基本的な考え方、立案方法、小学校へのアプローチカリキュラムなど
③	記録の書き方	保育の記録の書き方など
④	エピソード記録	エピソード記録の生かし方など
⑤	遊びの実技	音楽リズム、運動遊び、手遊び、絵画制作、表現遊び、自然遊びなど

⑥	保育の環境構成	保育室や戸外遊びなどの物的環境の整備、人的環境のあり方など
⑦	保育園の行事	行事のあり方、進め方など
⑧	異年齢保育	異年齢クラス・異年齢交流・縦割り保育の視点・方法など
⑨	乳児保育	乳児の発達に合わせた援助の視点・方法、環境構成、保育士連携など
⑩	障害児保育	障害児保育の基礎知識、統合保育、保護者支援など
⑪	気になる子	気になる子への対応、集団形成など
⑫	子どもの安全、事故予防	ヒヤリハット、災害対策、不審者対策、虐待対応、救命法など
⑬	子どもの健康と衛生管理	健康管理、衛生管理、感染症対策、食物アレルギーなど
⑭	食育	基本的な考え方、食育計画、実践方法など
⑮	保護者支援・保護者対応	保護者対応（話の聞き方・伝え方）、子育て相談など

(※2) ・ほぼ全員：経験年数や担当業務の別なく、園内の保育士全般を対象とした研修。結果として全員出席したか否かは問いません。

→この場合は、「ほぼ全員」欄に○を記載してください。

・対象を限定した：特定の人のみを対象とした研修（例：若手のみ、障害児担当のみ）。

→この場合、どのような人を対象としたのか、「対象を限定した」欄に具体的に記載してください。

(※3) ・講義：目標を設定するとともに、その達成に必要な内容を事前に検討し、レジュメ等を用意した上で実施するもの

・講話：園長・主任保育士などが、その時々に必要な事項を伝えるもの

・演習：グループワーク・討議（集団でのワーク・討議）、事例検討、文献学習（読書会）、共同研究、公開保育など

・実技・実習：技術・技能などを実際に行うもの（例：リズム遊び、体育遊び、AED操作）

5 育児休業から現場復帰する保育士を支えるために、どのような内容の研修が必要ですか。

5. 委員会および分析・執筆

保育コンソーシアムあいち

保育士研修検討委員会(保育コンソーシアムあいち・愛知県健康福祉部)

研究組織

委員長 大岩みちの（岡崎女子大学 准教授）
委 員 小川 純子（名古屋短期大学 助教）分析・執筆代表
委 員 成田 朋子（名古屋柳城短期大学 教授）
委 員 小嶋 玲子（桜花学園大学 教授）
委 員 布施佐代子（桜花学園大学 教授）
委 員 鳴守さやか（桜花学園大学 准教授）
委 員 鈴木 恒一（岡崎女子短期大学 准教授）

事務組織

委 員 式庄 憲二（保育コンソーシアムあいち 事務局長）
委 員 豊田麻友美（保育コンソーシアムあいち 事務局）
委 員 橋本 結花（保育コンソーシアムあいち 事務局）

「愛知県 保育士研修ガイドライン」作成における調査報告書

平成26年9月

保育コンソーシアムあいち 保育士研修検討委員会

分析・執筆代表者 小川純子 名古屋短期大学

連絡先：保育コンソーシアムあいち(Tel. 052-678-6161)

代表者連絡先(Tel. 0562-97-1306)

